

「共生の道探ろう」

エイズ会議踏まえ討論

神戸大でシンポ

7月に神戸市で開かれたアジア太平洋地域エイズ国際会議の成果を踏まえ、HIV（エイズウィ

ルス）の感染拡大防止について話し合うシンポジウムが22日、神戸市灘区六甲台町の神戸大大学院

であった。感染の現状について基調報告を聞いた後、約60人が2時間ばかり討論した。

会場からは「会議後もエイズへの関心が低いまま。どういふ啓発が効果的か」「予防のために性感染症の恐怖を言い過ぎると、感染したら自業自得、と取られ、感染者が潜在化する」などの質問があった。同市兵庫区保健福祉部の白井千香主

幹は「啓発事業でコンドームを配っている。行政ができるのは考えるきっかけづくりまで。個別の支援はNGOや当事者との連携で補っていきたい」。

表は、今後、対応が急がれるケースとして「夫としか性交渉がないのに、HIVに感染した女性」や「子どもをつくらうとコンドーム使用をやめた途端に感染した男女」を挙げ、「みんなが感染の危険性がある時代に入ったことを認識し、感染者

への偏見や差別を是正しよう」と訴えた。進行役を務めた同大のロニー・アレキサンダー教授は「薬で発症が抑えられる今、個人単位でエイズという病気とつきあうのではなく、社会全体で共生する道を探るべきだ」とまとめた。